

# 伊那市

# ふるさとだより

「伊那市ふるさとだより」は、伊那市ふるさと大使など市にゆかりのある皆様から故郷への思いやご提言、近況などをお寄せいただいています。



## ごあいさつ

伊那市長 白鳥 孝

日増しに暖かくなり、さくらのつぼみもふつくと、にわかには春色の深まりを感じる季節となっております。

「ふるさとだより」は、ふるさと大使、特命大使の皆様のほか、伊那市にゆかりのある皆様方から、本市に対するご意見やご提言をいただく場をつくるとともに、相互交流の機会としていただくことを目的に作成しており、本号で二十三号を迎えることとなりました。

本号も、伊那市にゆかりのある皆様の貴重な体験談やふるさとへの思い、鋭い情勢分析、また、伊那市へ

の積極的なご意見・ご提言など、大変内容の濃い貴重なものとなりました。ぜひ市民の皆様にもご一読いただきたいと考えております。

伊那市公式ホームページ上でもこの「ふるさとだより」を公開しておりますので、こちらもご活用ください。

また、お忙しい中ご寄稿いただきました皆様には、心から感謝申し上げます。今後も、引き続き市政へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 目次

有賀 暁子 (元NHKテレビ・ラジオ体操インストラクター)	2
井口 昭久 (愛知淑徳大学教授・名古屋大学名誉教授)	2
伊藤 喜良 (福島大学名誉教授)	3
伊藤 延司 (翻訳家・AFP通信日本版サイト顧問)	3
井口 武雄 (三井住友海上火災保険㈱ 名誉顧問)	3
大西 洋 (日本空港ビルデング㈱ 取締役副社長執行役員)	4
大羽 繁 (東京長谷人會相談役)	5
蟹澤 聰史 (東北大学名誉教授)	5
上岡実弥子 (㈱キャラウェイ代表取締役)	6
川村 利美 (箏曲演奏家)	6
北原 巖男 (一般社団法人 日本東ティモール協会 会長)	7
北原 照久 (㈱トイズ代表取締役)	7
北村 健治 (戸台の化石) 保存会名誉会長	8
木下 嘉隆 (マイクロンメモリジャパン合同会社 社長)	9
河野 實 (ジャーナリスト・ノンフィクション作家)	9
白井 温紀 (カーデンデザイナー)	10
中村 彰彦 (作家)	11
那須 弘平 (弁護士・元最高裁判所判事)	11
西村与志木 (元NHKエグゼクティブ・プロデューサー)	12
野溝 友也 (テレビディレクター)	13
原 克 (早稲田大学教授)	14
平出 敦 (医師・近畿大学教授)	14
福澤美喜男 (東京聖栄大学理事)	15
丸山 敬一 (中央大学名誉教授・法学博士)	15
三沢あけみ (歌手)	16
三沢 節夫 (日本大学名誉教授)	16
三澤 満 (ハワイ大学経営学部大学院教授)	17
向山 僚一 (洋画家)	18
山北 一司 (芸術文化普及研究者・生涯学習上級コーディネーター)	18
伊藤三千人 (画家) 挿絵二点(一九七〇年代の伊那の農家)「伊那東駒ヶ岳」	18

(掲載は五十音順とさせていただきます)

## 伊那の澄んだ空

蟹澤 聰史

一月六日、朝からそわそわする。部分日蝕の日なのだ。

伊那谷の空はいつも深い青。とくに真冬の空は格別だ。まさにフェルメールブルー。小学生の頃、祖父や祖母が使っていたらしい古い老眼鏡がいくつもあつた。このレンズを組み合わせて望遠鏡を作つた。あまりよく見えなかつたが、それでも遠くのものはずっと大きく見えた。中学生になつてどうしても本格的な望遠鏡がほしくなり、誠文堂新光社から口径五センチほどの小さなレンズのセットを取り寄せて、鏡筒は濡らせたボール紙を蕎麦の押し棒に巻きつけて作つた。三脚も自分で作つたが、鏡筒を支える部分を知り合いの大工さんが見かねて作ってくれた。いよいよ完成。クレータの見える月面や三日月状の金星、木星の四つの衛星などはよく見えた。土星の輪はガリレオが言っていたよ

うに耳のように、アンドロメダ星雲はただぼんやりとしか見えなかつた。それでも大満足で、寒い冬の夜はよく外に出て見たものだが、いつまでも見飽きなかつた。

戦後間もなくの頃の話だが、手良の小学校でも中学校でも理科の先生にはずいぶん可愛がられた。何もない当時だったが、小学校の担任の先生は小さい頃に愛読していた『子供の科学』などを学校に持ってきて貸してくださつた。自分で好きなことをやつても良い自由研究の時間があつた。

また、中学校では物理学校を卒業された先生が、程度の高い授業をされた。理科室にある薬品や、今ではほとんど見られないライデン瓶やワイムズハーストの起電機などで、火花放電の実験をされたり、フェノルフタレインで水を赤くしたり透明にしたり、面白い実験ばかりだった。受験勉強は全く経験の外であった。子供の頃に芽生えた好奇心と、あとから覚えた想像力がやつぱり大事なのだろう。

そんなことを思い出しながら、とつくに八十歳を超えたのにカメラを持ち出して欠け始める太陽を待っていた私。好奇心を育ててくださった先生方と伊那の空が懐かしい。

(東北大学名誉教授)

## そんなに休んで、どうすんねん!

上岡 実弥子

長野県民は、「勤勉」「真面目」と言われる。伊那の方言でも、「ずくがある」「みやましい」「まめ」等、多彩な表現がある。私の親類縁者一族郎党も、総じて「ずくがあり」「まめ」だった。

自営業は、三六五日働くのが当たり前。休んでいたら「家が回らない」。子供が夏休みでも親は仕事、が普通で、なんら疑問に感じなかつた。ただ、この「ずくがあるのが当たり前」「まめが普通」というハイスペックなオトナに囲まれると、子供は大変なプレッシャーである。

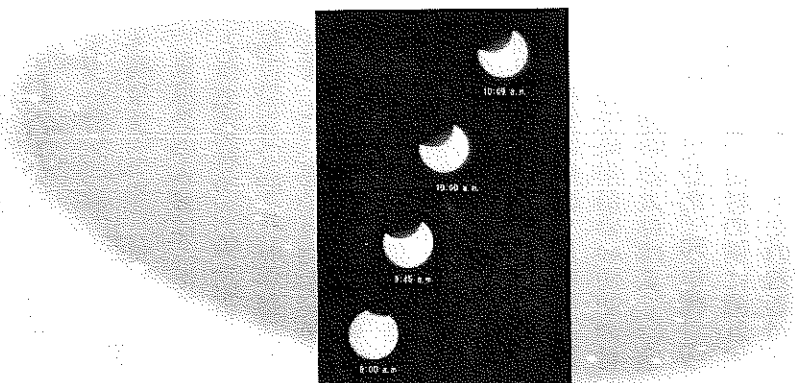
私は、小さい頃から、好きなことには凝るくせに、苦手な事からは逃げるタチ。家の手伝いは徹頭徹尾「サボる」「怠ける」「手を抜く」「先に延ばす」「踏み倒す」「逃げる」を貫いた(あまり褒められた話ではない)。

が、育つた環境というのは恐ろしい。自分で言うのも変だが、今の私は働きの者である。どんなに多忙でも「休むなどとは甘えの証拠」「心頭滅却すれば火もまた涼し」「撃ちてしやまん」「欲しがりません勝つまでは」と、あたかも戦時中のように自らを鼓舞激励してしまう。しかも、自分がやりたくて起業しているのに、仕事が多たたく苦にならない。

「働き方改革」が叫ばれる現在、まさに時代錯誤(アナクロ)。それに、上司がガツガツ働きすぎると、社員がやりにくいに決まっている。

二〇一八年末年始、弊社は11連休にした。私も、久々に仕事から離れ、買い物や家事にいそしんだ。寄席に行ったり、メルカリでモノを売り買いしたり、飲み食いしては寝る小原庄助ライフを楽しんだ。確かに、心身ともにリラックステスした。

が、どこか「遊びすぎじゃない?」「だらけてない?」と後ろめたい気持ちになったのは否めない。



ところで、今年のGWは、新天皇即位により10連休だ。「そんなに休んで、どうすんねん！」とTVにツッコむ私には、やはり「ずくがある」伊那の血が流れているのである。

(株)キャラウイット代表取締役



(株)キャラウイット 代表取締役 上岡実弥子講師

キャスター 佐藤まり江

独立行政法人中小企業基盤整備機構 公式チャンネル「WEBe Campus」  
1. 管理職の職務とリーダーシップ (1) 経営理念の重要性と位置づけ  
<https://www.youtube.com/watch?v=8FjjaaIP2uc&feature=youtu.be&t=8>

### 日本の音をつなぐ

川村 利美

私は伊那と東京で筆(こと)の演奏と教授活動する為、往復生活を始めて今年で45年

になります。私の所属している「財団法人正派邦楽会」は全国で一番大きな生田流箏曲の組織で、発祥の地が長野市ということもあり、特に長野県は大変盛んです。

私が箏を教える資格の試験を受けたのは、伊那弥生ヶ丘高校の一年生の丁度50年前の事です。音楽が好きだったので、小学校に入ってから、ピアノか箏を習わせてもらえらることになり、箏を選び、お稽古に通い始めたのは小学校二年の時です。

伊那中学校では吹奏楽部でフルートを、伊那弥生ヶ丘高校では音楽部でコーラスを、そして習い事として箏をと、ずっと音楽に親しんでまいりました。高校一年生の時、箏の准師範試験を受験してから私の行く道が決まりました。恩師であります今は亡き松本雅都已先生は、高校生にも拘わらず、准師範になったばかりの私に代稽古を任せたり、正派松本合奏団や東京にも勉強に行かせてくれました。高校生の頃に代稽古させて頂い

た何人かはずっと続けてきて、今は私を助け、共にこの道を歩んでいます。

伊那での様々なご縁に心より感謝しています。箏の専門学校「正派音楽院、NHK邦楽技能者育成会」で学び、先生へのご恩返しのため通っていました。伊那文化会館での「邦楽サラダ」などコンサートやイベントに繋がりが、全国また、海外公演などと活動範囲を広げる拠点になっていきました。「邦楽サラダ」でもずっとサポートして参りました私が代表を務めます「和のオーケストラむつ」も東京を中心に活躍しています。長野県内は勿論活動範囲を広げ、若い演奏家に受け継がれています。

昨年よりスタートした「まちなかStage」も伊那は、いとなつてのホールいっぱいのお客様のご支援をうけ、来年度以降も嬉しいことに繋がりそうです。

日本の音を未来に・・・  
(箏曲演奏家)

### 二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックに向けて

北原 巖男

いよいよ本年9月20日、11月2日に「ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会」が開催されます。アジアで行われるのは初めてのこと。世界から20チームが、全国12都市で熱戦を展開します。残念ながら伊那市を含め長野県内では開催されません。しかし、多くの伊那市民の皆さんが、全国各地に応援のため遠征されるのではないのでしょうか。

### 「ONE FOR ALL

ALL FOR ONE」

そして、その次に控える最大のイベントが、二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックです。オリンピックは7月24日、8月9日、パラリンピックは8月25日、9月6日に開催されます。これから各種施設整備の加速化、暑さ対策、ボランティアの確保等

はもちろん、オリンピック・パラリンピックに出場する選手の選考も大詰めを迎えます。今回の二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックは、伊那市民の皆さん一人ひとりにとつてとても身近な大会になることと思います。

伊那市は内閣官房から東テイモールのホストタウンに登録されており、今後、ホストタウンとしての様々な機能を温かく發揮して行く当事者は、伊那市民の皆さんです。東テイモールの皆さんとの様々なレベル・分野での交流の推進や同国選手の伊那市での事前合宿、本番での熱烈応援等いろいろな活動への取り組みが期待されます。

既に在京東テイモール大使、同国オリンピック委員会や体育協会の会長等も伊那市を訪問。伊那市の美しさ、伊那市民の皆さんの温かさに感激され、クロスカントリーコースや体育館、武道館、陸上競技場など各種運動施設の素晴らしさも高く評価しています。同行したマラソン選手と同国